



KYOTO
COLLEGE OF NURSING

2024 年度 授業概要 (3 年次)



学校法人 京都育英館

京都看護大学

目次（2024年度3年次）

課題探求ゼミ 1	1
課題探求ゼミ 2	2
保健統計学	3
看護キャリア開発論	4
ケアリングコミュニケーション	5
看護リフレクション	6
臨床実践と看護理論	7
課題探求	8
家族看護学	9
災害看護論	10
公衆衛生看護学	11
人間のライフスパンと生活行動実習 2	12
生活行動看護実習 3（成熟期）	13
生活行動看護実習 3（育成期）	13
生活行動看護実習 3（こころ）	14
生活行動看護実習 4（終末期）	14

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
課題探求ゼミ1(研究の基礎)		BNNBL09E05	202210105	9/10T	1(15)	必修
担当教員	全教員					
概要	研究手法の基礎を身に着けることを目的に、今前の学修をふまえ、生活行動看護についての疑問を設定し、研究論文を精読する。さらに、小グループでの発表とディスカッションを通して自己の疑問を探求し、課題探求ゼミ2の研究疑問につなげる。また、この過程を通して、発表や質疑応答の方法を修得し、科学的妥当性を吟味し新たな展開につなげるためのグループディスカッションの技術やメンバーシップのあり方を学ぶ。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己が設定した生活行動看護についての疑問に関連した研究論文を複数本、精読することができる。 2. 自己が設定した生活行動看護についての疑問に関連した複数の研究論文から明らかになったことについて記述できる。 3. 自己が設定した生活行動看護についての疑問について明らかになったことについて発表や質疑応答ができる。 4. 他者の発表に対して、課題の絞り込みにつながる建設的な意見を述べるができる。 5. 研究論文の精読およびグループディスカッションを通して、自己が設定した生活行動看護についての疑問から研究疑問を絞り込むことができる。 					
関連科目	基礎ゼミ1・2、中級ゼミ1・2、課題探求ゼミ2・3、課題探求					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価	評価に対するフィードバック方法		
	事前・事後学修	14%	目標1・2:14%	講義時間内		
	プレゼンテーション	20%	目標1・2・3:20%	講義時間内		
	授業への参画	16%	目標4:16%	講義時間内		
	最終レポート	50%	目標1・2・3・5:50%	個別		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	◎	全人的人間理解		職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力	◎	ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	
回	学修内容			予習・復習内容		取組時間
1	【全体】 ガイダンス 【ゼミ別】 ■生活行動看護の疑問とその理由の発表と意見交換			【予習】 これまでの講義、演習、実習をふまえて、生活行動看護を取り上げ、その疑問(なぜそうなのか、どのようにされているのか、どうしてそうされているのかなどと考えた事柄)と疑問と考えた理由について発表できるように準備する。詳細や提出方法は別途お知らせする。		予習/復習 2時間
2	【ゼミ別】 自己の生活行動看護の疑問のキーワードの整理 生活行動看護の疑問について文献検索			【復習】 メンバーからの意見をふまえて、疑問に関するキーワードやキーワードとした理由、次のゼミに向けて調べようと考えている疑問をまとめる		予習/復習 2時間
3	【ゼミ別】 ■疑問の探索から研究疑問へ1 自己の生活行動看護の疑問に関する研究論文を用いて調べた内容の発表およびディスカッション			【予習】 自己の生活行動看護の疑問に関連した研究論文を読み、その内容をまとめ、発表の準備をする 【復習】 読んだ研究論文とメンバーからの意見をふまえて、考えたことから、さらに調べようと考えた疑問をまとめる		予習/復習 2時間
4						予習/復習 2時間
5	【ゼミ別】 ■疑問の探索から研究疑問へ2 自己の生活行動看護の疑問に関する研究論文を用いて調べた内容の発表およびディスカッション			【予習】 前回のゼミと復習内容をふまえて、さらに自己の生活行動看護の疑問に関連した研究論文を読み、その内容をまとめ、発表の準備をする 【復習】 読んだ研究論文とメンバーからの意見をふまえて、考えたことから、さらに調べようと考えた疑問をまとめる		予習/復習 2時間
6						予習/復習 2時間
7	【ゼミ別】 ■疑問の探索から研究疑問へ3 自己の生活行動看護の疑問に関する研究論文を用いて調べた内容と研究疑問の発表およびディスカッション			【予習】 ここまでの発表と復習内容をふまえて、さらに自己の生活行動看護に疑問に関連した研究論文を読み、その内容をまとめるとともに、研究疑問についてまとめ、発表の準備をする 【復習】 最終レポートを作成し期限内に提出する		予習/復習 2時間
8						予習/復習 2時間
使用テキスト	坂下玲子他(最新版):系統看護学講座 別巻 看護研究 第2版,医学書院.					
参考図書	渡邊淳子(2022):〈改訂版〉大学生のための論文・レポートの論理的な書き方,研究社.					
教員に対する質問方法	各担当教員にメールまたは、オフィシアワーに問い合わせ(メールアドレス等は、大学HP参照)					

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
課題探求ゼミ2(研究課題の明確化)		BNNBL11E06	202210106	11/12T	1(15)	必修
担当教員	全教員					
概要	課題探求ゼミ1をふまえて、自己の研究疑問について、さらに研究論文等を読み、 系統的・多角的に調べた内容 を、小グループで発表する。また、グループでのディスカッションを通して、 研究課題を明確化し、研究計画書の作成 を行い、課題探求ゼミ3へとつなげていく。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題探求ゼミ1で明確になった研究疑問について、研究論文を用いて文献検討し、発表できる。 2. 文献検討した結果の発表およびグループでのディスカッションを通して、自己の研究課題を明確にし、説明できる。 3. 自己の研究課題を明らかにするために必要な研究方法を具体的に説明できる。 4. 自己の研究課題における倫理的配慮の必要性とその内容を具体的に説明できる。 5. 自己の研究課題に対する研究計画書を作成できる。 6. 他者の発表に対して、研究計画につながるよう建設的な意見を述べるができる。 					
関連科目	基礎ゼミ1・2、中級ゼミ1・2、課題探求ゼミ1・3、課題探求					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対するの評価	評価に対するフィードバック方法		
	事前・事後学修	18%	目標1・2:18%	講義時間内		
	プレゼンテーション	16%	目標1・2・3・4:16%	講義時間内		
	授業への参画	16%	目標6:16%	講義時間内		
	最終レポート(研究計画書)	50%	目標1・3・4・5:50%	個別		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	◎	全人的人間理解		職業倫理と人権擁護	○
	探求力と生涯学習能力	◎	ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	
回	学修内容			予習・復習内容		取組時間
1	【全体】 オリエンテーション 【ゼミごと】 課題探求ゼミ1で明確になった研究疑問についてのプレゼンテーション			【予習】 課題探求ゼミ1で明確になった研究疑問について発表できるように準備する。詳細や提出方法は別途お知らせする。 【復習】 各担当教員により提示された課題に取り組む		予習/復習 2時間
2	【ゼミごと】 ■研究疑問から研究課題の明確化1			【予習】 研究疑問に関する研究論文を読み、調べた内容をプレゼンテーションできるように準備する		予習/復習 2時間
3	1. 明確になった研究疑問に対する文献検討① *プレゼンテーション、ディスカッションを行う			【復習】 各担当教員により提示された課題に取り組む		予習/復習 2時間
4	【ゼミごと】 ■研究疑問から研究課題の明確化2			【予習】 研究疑問に関する研究論文を読み、調べた内容をプレゼンテーションできるように準備する		予習/復習 2時間
5	1. 明確になった研究疑問に対する文献検討② 2. 研究課題の明確化 *プレゼンテーション、ディスカッションを行う			【復習】 各担当教員により提示された課題に取り組む		予習/復習 2時間
6	【ゼミごと】 ■明確になった研究課題について研究計画書の作成			【予習】 第2～5回で読み調べた内容をまとめ、研究の背景と研究の目的と意義について記述する。		予習/復習 2時間
7	■自己の研究の倫理的配慮について *プレゼンテーション、ディスカッションを行う			【復習】 各担当教員により提示された課題に取り組む		予習/復習 2時間
8	11月22日(土)課題探求Ⅱ発表会に参加			【復習】 課題探求Ⅱに参加しての学びの提出		予習/復習 2時間
使用テキスト	坂下玲子他(最新版):系統看護学講座 別巻 看護研究 第2版,医学書院.					
参考図書	渡邊淳子(2022):〈改訂版〉大学生のための論文・レポートの論理的な書き方,研究社.					
教員に対する質問方法	各担当教員にメールまたは、オフィスアワーに問い合わせ(メールアドレス等は、大学HP参照)					

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
保健統計学		BNNEN12L10	202230110	3後	1(15)	必修
担当教員	齋藤 真					
概要	看護学ではさまざまな 保健統計データ に関して処理を行い、結果を解釈をする場面が多々あります。本講義では、看護学分野におけるさまざまな情報を活用することを目的に、統計学の基礎とSPSSを用いたデータの処理技法を学びます。本授業ではデータの特徴に合わせて処理ができるように統計解析の考え方や得られた結果の解釈を学び、さらに科学的な思考ができるように導きます。					
到達目標	1. 統計学および保健統計学の基礎知識を理解し、説明できる。 2. 統計処理ソフトの操作を理解できる。 3. 保健データについて統計学に分析する手法を理解し、結果を説明できる。					
関連科目	保健統計学入門、情報リテラシー					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対するの評価	評価に対するフィードバック方法		
	筆記試験	100	60点以上	試験後に解説		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	◎	全人的人間理解		職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力	○	ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	
回	学修内容			予習・復習内容		取組時間
1	オリエンテーション(本講義の学び方) SPSSを用いた保健統計①(SPSSの使い方について基本を学ぶ。)			テキストの該当部分を事前の予習、事後の復習を行う。		1時間
2	SPSSを用いた保健統計② (記述統計について模擬データを処理し、理解を深める。)			テキストの該当部分を事前の予習、事後の復習を行う。		1時間
3	SPSSを用いた保健統計③ (相関・回帰について模擬データを処理し、理解を深める。)			テキストの該当部分を事前の予習、事後の復習を行う。		1時間
4	SPSSを用いた保健統計④ (t検定について模擬データを処理し、理解を深める。)			テキストの該当部分を事前の予習、事後の復習を行う。		1時間
5	SPSSを用いた保健統計⑤ (t検定について模擬データを処理し、理解を深める。)			テキストの該当部分を事前の予習、事後の復習を行う。		1時間
6	SPSSを用いた保健統計⑥ (カイニ乗適合度の検定について模擬データを処理し、理解を深める。)			テキストの該当部分を事前の予習、事後の復習を行う。		1時間
7	SPSSを用いた保健統計⑦ (カイニ乗独立性の検定について模擬データを処理し、理解を深める。)			テキストの該当部分を事前の予習、事後の復習を行う。		1時間
8	SPSSを用いた保健統計⑧ (マンホイットニーのU検定、ウィルコクソンの符号付き順位検定について模擬データを処理し、理解を深める。)			テキストの該当部分を事前の予習、事後の復習を行う。		1時間
使用テキスト	オリジナルテキスト(SPSS Tips2024、開校時に説明する。)					
参考図書	ていねいな保健統計学(羊土社、※1年次「保健統計学入門」で使用した教科書)					
教員に対する質問方法	非常勤:連絡可能なメールアドレスor教務部アドレス(教務部:kyoumubu@kyotokango.ac.jp)					

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
看護キャリア開発論		BNNHN09L07	202240107	3前	1(15)	選択
担当教員	◎宇野真由美	実務歴	有	看護師として病院に7年勤務		
概要	社会人として働くことの基本的知識に基づき、看護専門職として働き自身のキャリアを発展させることの意義を学ぶ。看護大学生から看護師となる移行期、新人期、中堅、ベテランへのキャリア発達と臨床における実際を理解し、それらに関するマネジメントについて学び、働き方の質についても考慮した自己のキャリアプランを描き表現する。					
到達目標	1 生涯発達を基盤に社会人として組織で働くことの意義を説明できる。 2 一般的なキャリア、キャリアディベロップメント、キャリアマネジメントについて説明ができる。 3 看護職個人としてのキャリア、キャリアディベロップメント、キャリアマネジメントと組織の体制について説明ができる。 4 プレイフルな視点から自己のキャリアプランについて述べるができる。					
関連科目	看護リフレクション、ケアリングコミュニケーション 等					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対するの評価	評価に対するフィードバック方法		
	レポート	100%	目標1~4 各25%	レポートにコメントを記述し返却する		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解		職業倫理と人権擁護	◎
	探求力と生涯学習能力	◎	ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	
回	学修内容			予習・復習内容		取組時間
1	ガイダンス、社会人として組織で働くということ、生涯発達			【予習】社会人について考える 【復習】授業中に指示する		予習 復習 2時間
2	キャリアとは			【予習】前回の授業で出た課題を行う 【復習】授業中に指示する		予習 復習 2時間
3	専門職および看護専門職			【予習】前回の授業で出た課題を行う 【復習】授業中に指示する		予習 復習 2時間
4	職能団体、組織におけるキャリアディベロップメント			【予習】前回の授業で出た課題を行う 【復習】授業中に指示する		予習 復習 2時間
5	キャリアアンカーとマネジメント			【予習】前回の授業で出た課題を行う 【復習】授業中に指示する		予習 復習 2時間
6	プレイフルなキャリアデザインワーク(その1)			【予習】前回の授業で出た課題を行う 【復習】授業中に指示する		予習 復習 2時間
7	プレイフルなキャリアデザインワーク(その2)			【予習】前回の授業で出た課題を行う 【復習】授業中に指示する		予習 復習 2時間
8	自己のキャリアデザイン			【予習】前回の授業で出た課題を行う 【復習】授業中に指示する		予習 復習 2時間
使用テキスト	なし。適宜資料を提示する。					
参考図書	適宜紹介する					
教員に対する質問方法	メールアドレス:m_uno@kyotokango.ac.jp オフィスアワー 在校生HPを確認					

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
ケアリングコミュニケーション		BNNSS5E10	30110	3前	1(15)	必修
担当教員	井上 深幸	実務歴	有	看護師として病院/診療所に勤務		
概要	<p><u>ケアリングの理論及びコミュニケーション理論</u>について学び、看護におけるコミュニケーションを<u>ケアリングコミュニケーション</u>として捉えなおす。 次に、臨地実習での自己の看護の振り返りをもとに、自己のケアリングコミュニケーションを開発する。</p>					
到達目標	<p>1)ケアリングが求められる背景について説明できる。 2)ケアリングと関連のあるコミュニケーション理論について説明できる。 3)看護の場面を再構成し、看護におけるケアリングコミュニケーションについて考察できる。 4)臨地実習の経験を振り返り、患者との相互作用について分析し、自己のケアリングコミュニケーションの方略を説明できる。</p>					
関連科目	看護学原論、生活行動看護演習1、生活行動看護実習2、生活行動看護実習3、生活行動看護実習4、地域包括ケア実習3					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価	評価に対するフィードバック方法		
	レポート	70%	1)15% 2)10% 3)20% 4)25%	別途レビューで説明		
	授業参画	30%	1)10% 2)10% 3)10%	授業内でフィードバック		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解	○	職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション	◎	適切な看護実践	○
回	学修内容	予習・復習内容			取組時間	
1	看護におけるコミュニケーションについて考える	予:援助の時のコミュニケーションを振り返る 復:自己のコミュニケーションの振り返り			予習2時間 復習2時間	
2	ケアリングが求められる背景とケアリングの効果	予:p5-p17, p116-p124を読む 復:ケアリングについて理解したことを300字程度で記述しポータルで提出			予習2時間 復習2時間	
3	ケアリングと関連のあるコミュニケーション理論	予:p18-p34を読む 復:コミュニケーション理論の学びを300字程度で記述しポータルで提出			予習2時間 復習2時間	
4	自己のケアリングコミュニケーションの再構成	予:看護におけるケアリングコミュニケーションとはどのようなものか考える 復:構築した看護におけるケアリングコミュニケーションについて300字程度で記述しポータルで提出			予習2時間 復習2時間	
5	看護におけるケアリングコミュニケーションの開発	予:今後の実習に活かすケアリングコミュニケーションについて考える 復:看護におけるケアリングコミュニケーションのシナリオ作成			予習2時間 復習2時間	
6	看護におけるケアリングコミュニケーションの開発	予・復:看護におけるケアリングコミュニケーション発表準備			予習2時間 復習2時間	
7	看護におけるケアリングコミュニケーションの開発	予:看護におけるケアリングコミュニケーションの発表準備 復:他者の発表内容から学ぶ			予習2時間 復習2時間	
8	まとめ ~Montgomery,Wiedenbach, Nightingaleの言葉	予:自己のケアリングコミュニケーションを深める 復:学びを確認する			予習2時間 復習2時間	
使用テキスト	キャロル・レツパネン・モンゴメリー 訳)神郡 博他(1995)『ケアリングの理論と実践 コミュニケーションによる癒し』医学書院					
参考図書	池田明子訳 Wiedenbach著(2015)『コミュニケーション効果的な看護を展開する鍵』日本看護協会出版会。					
教員に対する質問方法	メールアドレス:m_inoue@kyotokango.ac.jp オフィスアワー 在校生HPを確認					

5 ケアリングコミュニケーション

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
看護リフレクション		BNNSS5E12	30202	3後	1(15)	選択
担当教員	◎繆坂 由紀	実務歴	有	看護師として病院に3年勤務		
概要	リフレクション とは、自身の経験を意識的に振り返り、意味づけする思考のプロセスである。実習経験を振り返ることを通して、看護学の視点から意味づけを行う、看護リフレクション能力の修得を目指す。					
到達目標	1. リフレクションのプロセスを説明することができる 2. 実習経験を振り返ることを通して、看護学の視点から意味づけすることができる					
関連科目	3年次の実習科目全て					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価	評価に対するフィードバック方法		
	定期試験(レポート)	70%	到達目標1、2-70%	別途レビューで説明		
	事前・事後課題、授業参画(相互評価含む)	30%	到達目標1、2-30%	授業時に説明・返却		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解		職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力	◎	ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	○
回	学修内容			予習・復習内容		取組時間
1	ガイダンス リフレクションの理論的背景:リフレクティブシンキング(Dewy)			【予習】提示された課題を行う 【復習】講義・演習内容をまとめる		予習2時間 復習2時間
5	リフレクションの理論的背景:リフレクティブプラクティス(SchÖn)					予習2時間 復習2時間
6	リフレクションの方法:リフレクティブサイクル(Gibbs)			【予習】リフレクションする場面を抽出しリフレクティブノートに記述する 【復習】抽出した場面について分析、評価、統合のプロセスを進めリフレクティブノートに記述する		予習2時間 復習2時間
8	リフレクションのプロセス:表現グループで共有ー					予習2時間 復習2時間
9	リフレクションのプロセス:分析、評価、統合・今後の計画グループで共有ー			【予習】抽出した場面について分析、評価、統合のプロセスを進めリフレクティブノートに記述する 【復習】意味づけと課題をリフレクティブノートに記述する		予習2時間 復習2時間
10	リフレクションのプロセス:分析、評価、統合・今後の計画グループで共有ー					予習2時間 復習2時間
11	リフレクションのアウトカム:意味づけと課題の明確化グループで共有ー			【予習】意味づけと課題を記述する 【復習】講義・演習内容をまとめる		予習2時間 復習2時間
12	まとめ					予習2時間 復習2時間
使用テキスト	1. ロイロノートスクール					
参考図書	1. 田村由美他(2015):看護の教育・実践にいかすリフレクション, 南江堂. 2. 佐藤学他訳(2007):専門家の知恵 反省的実践家は行為しながら考える, ゆみる出版. その他は講義時に適宜紹介する					
教員に対する質問方法	メールアドレス:y_ajisaka@kyotokango.ac.jp オフィスアワー:在校生HPを確認					

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
臨床実践と看護理論		BNNHN12L10	202240110	3後	1(15)	必修
担当教員	◎中島 優子	実務歴	有	看護師として病院に11年勤務		
概要	看護実践、教育、研究で用いられている看護理論を理解し、 自己の実習経験を省察 するとともに、看護理論との照合・適合・齟齬を考察する中で、看護理論の 看護実践への活用の可能性と限界 について思考する。さらに、専門職としての看護における理論の重要性について考察する。					
到達目標	1. 臨地での実習体験を振り返り、記述することができる。 2. 臨地での実習体験を看護理論を用いて考察することができる。 3. 看護理論の看護実践への活用の可能性と限界について考えることができる。 4. 看護専門職として看護における理論の重要性について考察できる。					
関連科目	看護学原論・各臨地実習・課題探求・ケアリングとコミュニケーション					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価	評価に対するフィードバック方法		
	定期試験	60%	到達目標1・2・3・4: 各15%	定期試験後のレビューで説明		
	授業参画	40%	到達目標1・2・3・4: 各10%	講義内でフィードバック		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解	○	職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	◎
回	学修内容		事前・事後課題			取組時間
1	ガイダンス ・ディプロマポリシーと本科目の位置づけ ・授業概要と到達目標および予習・復習内容 ”看護とは・看護理論とは”		事前：“看護とは・看護理論とは”について復習する 事後：“看護とは・看護理論とは”について再考する			予習2時間 復習2時間
2	臨地実習での体験「患者のセルフケア」、「ヘルスプロモーション」についてナラティブ(GW)		事前：“患者のセルフケア”の臨地体験を記述する 事後：GWを踏まえて提示された課題に取り組む			予習2時間 復習2時間
3	看護理論 ：S.Cロイ、D.Eオレム、N.Jペンダー		事前：“セルフケア”“ヘルスプロモーション”に関する理論の読み込み 事後：講義を踏まえて提示された課題に取り組む			予習2時間 復習2時間
4	臨地実習での体験「看護師-患者の人間関係」について ナラティブ(GW)		事前：“看護師-患者の人間関係について”の臨地体験を記述する 事後：GWを踏まえて提示された課題に取り組む			予習2時間 復習2時間
5	看護理論 ：Jトラベルビー、K.コルカバ		事前：“看護師-患者の人間関係”に関する看護理論の読み込み 事後：講義を踏まえて提示された課題に取り組む			予習2時間 復習2時間
6	臨地実習での体験「患者のニーズと充足のケア」について ナラティブ(GW)		事前“ニーズと充足のケア”に関する看護理論の読み込み 事後：GWを踏まえて提示された課題に取り組む			予習2時間 復習2時間
7	看護理論の看護実践への活用の可能性と限界について (グループワーク)		事前：課題に則って各自がグループ内で発表できるように準備 事後：pptでの発表準備			予習2時間 復習2時間
8	看護理論の看護実践への活用の可能性と限界について (グループ発表)		事前：pptでの発表原稿の提出 事後：発表を踏まえて提示された課題に取り組む			予習2時間 復習2時間
使用テキスト	黒田裕子 監修(2021)「看護診断のためのよくわかる中範囲理論 第3版」、Gakken					
参考図書	適宜紹介する					
教員に対する質問方法	常勤：メールアドレス:y_nakashima@kyotokango.ac.jp オフィスアワー 在校生HPを確認					

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
課題探求		BNNHN12L11	202240111	3後	1(15)	必修
担当教員	◎菅田 勝也	実務歴	有	看護師として病院に勤務		
担当教員	滝澤 寛子	実務歴	有	看護師として病院に1年勤務・市町村保健師として2年勤務		
概要	科学的思考力及び探求力を修得し、倫理的感受性を高めるために、看護における 研究の必要性とその進め方 について理解を深めるとともに、 研究テーマに取り組むための基礎能力 を養う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の意義とその必要性について説明できる。 2. クリティークの視点について説明できる。 3. 看護研究の方法と進め方について説明できる。 4. 研究計画書の意義について説明できる。 5. 研究倫理の重要性と倫理的配慮について説明できる。 					
関連科目	課題探求実習					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対するの評価		評価に対するフィードバック方法	
	定期試験	70%	1)10% 4)10%	3)30% 5)20%	定期試験後のレビューでフィードバック	
	レポート	30%	2) 30%			
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	◎	全人的人間理解		職業倫理と人権擁護	○
	探求力と生涯学習能力	○	ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	
回	学修内容			予習・復習内容		取組時間
1	看護における研究の意義と課題、看護専門職として研究を行う責務			【予習】:看護研究とは何か読む。 【復習】:講義内容の整理		予習2時間 復習2時間
2	研究疑問の絞り込みと文献検索の仕方			【予習】:リサーチクエッションとは何か教科書を読む。 【復習】:講義内容の整理		予習2時間 復習2時間
3	研究デザインと方法①:量的研究と進め方			【予習】:量的研究とはどのようなものか教科書を読む。 【復習】:量的研究について、教科書や授業資料を読み復習する。		予習2時間 復習2時間
4	研究デザインと方法②:質的研究と進め方			【予習】:質的研究とはどのようなものか教科書を読む。 【復習】:質的研究について、教科書や授業資料を読み復習する。		予習2時間 復習2時間
5	文献検討とクリティーク:クリティークポイントに沿って			【予習】:研究疑問に沿って文献1本を選択し持参する。 【復習】:文献1本をクリティークし、指定日に提出する。		予習2時間 復習2時間
6	研究計画書の意義と構成			【予習】:研究計画書とはどのようなものか教科書を読む。 【復習】:研究計画について、教科書や授業資料を読み復習する。		予習2時間 復習2時間
7	研究計画書例を用いた学修			【予習】:自身の研究課題をもとに研究計画を考える。 【復習】:研究計画書について復習する。		予習2時間 復習2時間
8	研究倫理と倫理的配慮:研究倫理申請書の書き方			【予習】:研究倫理とはどのようなものか教科書を読む。 【復習】:大学の倫理審査申請書をもとに教科書や授業資料を読み復習する。		予習2時間 復習2時間
使用テキスト	坂下玲子『看護研究』医学書院 最新版					
参考図書	講義中に紹介する					
教員に対する質問方法	メールアドレス:菅田勝也 k_kanda@kyotokango.ac.jp 滝澤寛子 h_takizawa@kyotokango.ac.jp オフィスアワー:在学生HPを確認					

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
家族看護学		BNNHN09L21	202240305	3年9T	1	必修
担当教員	◎中森 美季	実務歴	有	看護師として5年		
概要	看護の対象を、患者と患者を取りまく家族とらえ、現代家族論での学びをもとに、看護における「家族」の概念を理解する。 そして、健康問題をもつ成員を抱える家族を一単位としてアセスメントし、援助計画を立案し、実施・評価する方法を修得する。 また様々なライフステージや発達段階にある家族への看護実践事例を通して、具体的な看護への理解を深める。					
到達目標	1)看護学における「家族」の概念や家族を捉えるための諸理論について述べることができる。 2)健康問題をもつ成因を抱える家族について、各成員個人および集団の特徴を述べることができる。 3)健康問題をもつ成因を抱える家族を一単位として、アセスメント、計画立案、実践、評価の一連の家族看護過程の展開方法について説明できる。 4)健康問題をもつ成員を抱える家族(集団)への援助方法について述べるができる。					
関連科目	ライフパンと人間発達、人間と生活行動シリーズ1～7、看護過程論1・2、看護過程論演習					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対するの評価	評価に対するフィードバック方法		
	レポート課題	70%	1)～4):70%	試験後のレビュー		
	事前・事後学修課題 授業への参画	30%	1)～4):30%	各講義時間内		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解	◎	職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	○
回	学修内容			予習・復習内容		取組時間
1	ガイダンス 家族看護学の変遷と定義 看護の対象としての家族とは 家族看護学の意義と必要性			【予習】 1)提示された課題に取り組む 【復習】 1)事前課題に講義内容で理解したことを追加・整理し、講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)提示された課題について取り組む		予習/ 復習 2時間
2	看護学における家族の理解1 生活者(個人)としての家族 ローパーの生活行動看護モデルを用いて			【予習】 1)提示された課題に取り組む 【復習】 1)事前課題に講義内容で理解したことを追加・整理し、講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)提示された課題について取り組む		予習/ 復習 2時間
3	看護学における家族の理解2 集団としての家族 家族周期、家族の機能、「健康な」家族			【予習】 1)提示された課題に取り組む 【復習】 1)事前課題に講義内容で理解したことを追加・整理し、講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)提示された課題について取り組む		予習/ 復習 2時間
4	家族を捉えるための諸理論 家族発達理論、家族システム理論、家族ストレス対処理論			【予習】 1)提示された課題に取り組む 【復習】 1)事前課題に講義内容で理解したことを追加・整理し、講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)提示された課題について取り組む		予習/ 復習 2時間
5	事例を通じた家族の理解と家族看護過程の展開1 ジェノグラム、エコマップ 渡辺式家族アセスメント支援モデル モデルを活用したアセスメントと問題の明確化①			【予習】 1)提示された課題に取り組む 【復習】 1)事前課題に講義内容で理解したことを追加・整理し、講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)提示された課題について取り組む		予習/ 復習 2時間

6	事例を通した家族の理解と家族看護過程の展開2 渡辺式家族アセスメント支援モデルを活用した アセスメントと問題の明確化②	【予習】 1)提示された課題に取り組む 【復習】 1)事前課題に講義内容で理解したことを追加・ 整理し、講義終了時に挙げた自己の学習課 題に取り組む 3)提示された課題について取り組む	予習/ 復習 2時間
7	事例を通した家族の理解と家族看護過程の展開3 渡辺式家族アセスメント支援モデルを活用した 看護計画と評価	【予習】 1)提示された課題に取り組む 【復習】 1)事前課題に講義内容で理解したことを追加・ 整理し、講義終了時に挙げた自己の学習課 題に取り組む 3)提示された課題について取り組む	予習/ 復習 2時間
8	まとめ	【予習】 1)提示された課題に取り組む 【復習】 1)事前課題に講義内容で理解したことを追加・ 整理し、講義終了時に挙げた自己の学習課 題に取り組む 3)提示された課題について取り組む	予習/ 復習 2時間
使用 テキスト	鈴木和子,渡辺裕子,佐藤律子(2019):家族看護学 理論と実践 第5版,日本看護協会出版会.		
参考図書	講義内で適宜紹介する		
教員に対する 質問方法	メールアドレス:m_nakamori@kyotokango.ac.jp / オフィスアワー:在校生HPを確認		

授業科目	教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
災害看護論			前期		必修
担当教員	◎田口 豊恵	実務歴	有	看護師として病院に13年勤務	
担当教員	木下 まゆみ	実務歴	有	看護師として病院に12年7カ月勤務	
概要	災害看護の歴史や基礎知識について理解を深める。近年、国内外で発生した災害を取り上げて、災害サイクルおよび被災者特性に応じた災害看護の展開の在り方について学ぶ。				
到達目標	1. 災害看護の基礎知識について理解できる。 2. 災害サイクル各期における特徴と健康問題について理解できる。 3. 被災者特性に応じた災害時の看護について考えられる。 4. 災害が及ぼす12の生活行動への影響について、ローパー・ローガン・ティアニー看護モデルを用いて考えられる。 5. 災害時の応急処置について理解できる。				
関連科目	人間と生活行動1～7 生活行動逸脱看護1～7 生活行動看護演習1～7 地域包括ケア論				
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対するの評価		評価に対するフィードバック方法
	定期試験	100%	到達目標1・2:40% 到達目標3・4・5:60%		定期試験後のレビューで説明する (非常勤講師のレビューも含む)
DPとの対応	智をいっくしむ力		人をいっくしむ力		命をいっくしむ力
	科学的論理的思考力	◎	全人的人間理解		○ 職業倫理と人権擁護
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション		○ 適切な看護実践
回	学修内容			事前学修(時間内確認)・ 事後学修(時間内または次時間確認、補足)	取組 時間
1	講義ガイダンス、災害看護学を学ぶ意義と災害看護の歴史、 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護:急性期～復興期			【事前学修】p107-141を読む 【事後学修】課題の事例をまとめる	2
2	被災者のライフスパンに応じた災害時の看護			【事前学修】p151-168を読む 【事後学修】課題の事例をまとめる	2
3	災害が及ぼす12の生活行動への影響:ローパー・ローガン・ティアニー看護モデルを用いた分析			【事前学修】事例について調べておく 【事後学修】課題の事例をまとめる	2
4	災害が及ぼす12の生活行動への影響:ローパー・ローガン・ティアニー看護 モデルを用いた分析に基づく看護介入			【事前学修】p151-168を読む 【事後学修】課題の事例をまとめて提出する	2
5	災害時の個別性を踏まえた看護ケア① 日本赤十字社の活動の実際			【事前学修】事前に指示する 【事後学修】講義中に指示する	2
6	災害時の個別性を踏まえた看護ケア② 災害時における感染予防対策			【事前学修】事前に指示する 【事後学修】講義中に指示する	2
7	被災者の依存・自立度に応じた看護①:トリアージ、応急処置、包帯法			【事前学修】事前に指示する 【事後学修】講義中に指示する	2
8	被災者の依存・自立度に応じた看護②:災害関連死、こころのケア			【事前学修】事前に指示する 【事後学修】講義中に指示する	2
使用 テキスト	①浦田喜久子 小原真理子他『系統的看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学 最新版』医学書院 ②山勢博彰 山勢善江他『系統的看護学講座 救急看護学 最新版』医学書院				
参考図書	講義中に提示する				
教員に対する 質問方法	常勤:田口豊恵 t_taguchi@kyotokango.ac.jp 非常勤:木下まゆみ先生 (教務部:kyoumubu@kyotokango.ac.jp) オフィスアワー 在校生HPを確認				

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
公衆衛生看護学		BNNHN12L23	202240307	3後(12T)	1(15)	必修
担当教員	◎滝澤寛子	実務歴	有	保健師として地方自治体(市町村)に2年勤務		
担当教員	河田志帆	実務歴	有	保健師として行政に3年、産業に5年勤務		
概要	看護の対象を、 人々が生活する地域全体 ととらえ、地域を基盤として展開する公衆衛生看護の基礎を学ぶ。公衆衛生看護の理念、目的、対象および 対象の特性を踏まえた具体的な看護の展開方法 について学修するとともに、 地域で療養する人々への地域包括ケア についても学ぶ。					
到達目標	1. 公衆衛生看護の理念・目的、対象、活動方法について理解することができる 2. 全ての人々の健康生活の向上のための公衆衛生看護活動について理解することができる 3. 全ての人々の健康生活の向上のために社会環境へのアプローチの必要性について理解することができる 4. 人々の健康生活の向上のための公衆衛生看護活動における看護職の役割について考えることができる					
関連科目	公衆衛生学					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価	評価に対するフィードバック方法		
	授業内課題	40	到達目標1 -10% 到達目標2 -10% 到達目標3 -10% 到達目標4 -10%	授業内で解説		
	定期試験	60	到達目標1 -15% 到達目標2 -15% 到達目標3 -10% 到達目標4 -10%	定期試験後のレビューで説明		
DPとの対応	智をいっくしむ力		人をいっくしむ力		命をいっくしむ力	
	科学的論理的思考力	○	全人的人間理解	○	職業倫理と人権擁護	○
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	◎
回	学修内容			予習・復習内容		取組時間
1	ガイダンス/公衆衛生看護の理念と目的 (基本概念・対象・場・活動方法・法的基盤・社会的公正・ヘルスプロモーションなど)			【事前】教科書p14-16「2. 移行に伴う継続性の担保」を読み、移行に伴い起こり得る生活の変化と健康上の問題について考える 【事後】教科書第1部第1章(p2-28)と第3章(p27-84)を復習する。		予習2時間 復習2時間
2	公衆衛生看護活動の展開の方法と場 (個人・家族から集団・地域、行政・学校・産業)			【事前】教科書第1部第4章(p99-117)と第5章(p119-141)を読み理解する 【事後】今回の授業内容を踏まえて教科書第1部第4章(p99-117)と第5章(p119-141)を読み復習する		予習2時間 復習2時間
3	公衆衛生看護における支援方法① (保健指導、家庭訪問、健康教育など)			【事前】教科書第2部第1章(p146-152)、第2章(p156-168)、第5章(p186-202)を読み、理解する 【事後】授業内容を踏まえて、教科書第2部第1章(p146-152)、第2章(p156-168)、第5章(p186-202)を読み復習する		予習2時間 復習2時間
4	公衆衛生看護における支援方法② (保健指導、家庭訪問、健康教育など) ★GW			【事前】教科書第2部第1章(p146-152)、第2章(p156-168)、第5章(p186-202)を読み、理解する 【事後】今回の授業内容を踏まえて、授業内容を踏まえて、教科書第2部第1章(p146-152)、第2章(p156-168)、第5章(p186-202)を読み復習する		予習2時間 復習2時間

5	公衆衛生看護活動の実際 (ライフステージ・健康レベルに焦点を当てた活動)	【事前】教科書第3部第1章A～C(p248-352)、第2章A～C(p422-497)を読み、京都市で行われている保健活動について調べてくる 【事後】授業内容を踏まえ、教科書第3部第1章A～C(p248-352)と第2章A～C(p422-497)を読み復習する	予習2時間 復習2時間
6	公衆衛生看護活動の実際 ★GW	【事前】教科書第3部第1章A～C(p248-352)第2章A～C(p422-497)を読み、京都市で行われている保健活動について調べてくる 【事後】授業とグループワークの内容を踏まえ、教科書第3部第2章A、B(p422-468)2章A～C(p422-497)を読み復習する	予習2時間 復習2時間
7	地区活動と地域診断 (GWと講義)	【事前】教科書第2部第8章(p219-224)を読み、p227表3「地域アセスメントにおける地域情報」を参考に、中京区にはどのような環境でどのような人々が住んでいるのか調べる 【事後】グループワークを基に、中京区の住民の健康状態についてまとめる	予習2時間 復習2時間
8	ケアシステムづくり (資源の開発・事業化・施策化など)	【事前】教科書第2部第8章(p219-224)を読み理解する 【事後】教科書第2部第8章(p219-224)を読み、中京区の住民の健康状態を踏まえ、必要な社会資源について考える	予習1時間 復習1時間
使用 テキスト	上野昌江, 和泉京子編集:公衆衛生看護学(第3版). 中央法規		
参考図書	適宜紹介する		
教員に対する質問方法	常勤:メールアドレス:滝澤寛子 h_takizawa@kyotokango.ac.jp :河田志帆 s_kawata@kyotokango.ac.jp オフィスアワー 在校生HPを確認		

授業科目	教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択	
人間のライフスパンと生活行動実習2	BNNHN09P41	202240418	3前後 (9~11T)	BNNHN09P41	202240418	
担当教員	◎林 里沙子 他					
概要	周産期にある女性や乳幼児、およびその家族に焦点をあて、これらの人々の生活圏の地区踏査を通して生活環境を理解する。また対象の生活行動の把握を通して、養育期にある家族への地域での看護職の役割を考察する。					
到達目標	実習要項参照					
成績評価						
学修内容						
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	◎	全人的人間理解	○	職業倫理と人権擁護	○
	探求力と生涯学習能力	◎	ケアリングとコミュニケーション	○	適切な看護実践	◎

授業科目	教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択	
生活行動看護実習3(成熟期)	BNNHN09P47	202240424	3前後 (9~11T)	BNNHN09P47	202240424	
担当教員	◎田村 葉子 他					
概要	地域連携室・入退院支援室を通して入院する急性期から慢性期にある成熟期(成人、高齢者)の患者とその家族を全人的に捉え、心身の健康回復に向けて生活行動看護実習2で学修した思考過程を基盤に複数名の看護過程を展開する。また、患者の回復状態に応じて、退院支援に向けた看護や外来受診時には患者教育の一部を実践・評価するための基礎的能力を培う。一連の過程を通して、看護の専門性を発揮するための看護連携のあり方とその役割を学ぶ。					
到達目標	実習要項参照					
成績評価						
学修内容						
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	◎	全人的人間理解	○	職業倫理と人権擁護	○
	探求力と生涯学習能力	◎	ケアリングとコミュニケーション	○	適切な看護実践	◎

授業科目	教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択	
生活行動看護実習3(育成期)	BNNHN09P48	202240425	3前後 (9~11T)	BNNHN09P48	202240425	
担当教員	◎林 里沙子 他					
概要	地域連携室・入退院支援室を通して入院する正常な周産期の生理的変化の過程にある女性、その逸脱の状態にある女性、成長発達が逸脱状態にある子どもの生活行動に着目し、対象と家族を全人的にとらえ、心身の健康の維持・増進や回復に向けて生活行動看護実習2で学修した思考過程を基盤に、複数名の看護過程を展開する。また、対象の生理的変化や回復状態に応じて、退院支援に向けた看護や、健診・外来受診時の健康教育の一部を実践・評価するための基礎的能力を培う。一連の過程を通して、看護の専門性を発揮するための看護連携のあり方とその役割を学ぶ。					
到達目標	実習要項参照					
成績評価						
学修内容						
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	◎	全人的人間理解	○	職業倫理と人権擁護	○
	探求力と生涯学習能力	◎	ケアリングとコミュニケーション	○	適切な看護実践	◎

授業科目	教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択	
生活行動看護実習3(こころ)	BNNHN09P49	202240426	3前後 (9~11T)	BNNHN09P49	202240426	
担当教員	◎三林 聖司 他					
概要	地域連携室を通して入院する精神看護領域における急性期から慢性期にある患者とその家族を全人的に捉え、心身の健康回復に向けて生活行動看護実習2で学修した思考過程を基盤に看護過程を展開する。また、患者の回復状態に応じて、退院支援に向けた看護や外来受診時には生活指導の一部を実践・評価するための基礎的能力を培う。一連の過程を通して、看護の専門性を発揮するための看護連携のあり方とその役割を学ぶ。					
到達目標	実習要項参照					
成績評価						
学修内容						
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	◎	全人的人間理解	○	職業倫理と人権擁護	○
	探求力と生涯学習能力	◎	ケアリングとコミュニケーション	○	適切な看護実践	◎

授業科目	教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択	
生活行動看護実習4(終末期)	BNNHN12P50	202240427	3後 (12T)	BNNHN12P50	202240427	
担当教員	◎中村 正子 他					
概要	人生の最終段階にある人々とその家族を総合的に理解する。具体的には、患者・家族の希望を尊重しながら苦痛緩和に向けて必要な看護援助を看護師の援助に同伴し、理解を進める。患者・家族の身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな状況のアセスメントを行い、症状緩和や患者・家族への意思決定支援や多職種連携等の看護を通して人生の最終段階を支える看護の意義や役割について理解し、QOLの向上を目指した看護実践力の基礎を養う。					
到達目標	実習要項参照					
成績評価						
学修内容						
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	◎	全人的人間理解	○	職業倫理と人権擁護	○
	探求力と生涯学習能力	◎	ケアリングとコミュニケーション	○	適切な看護実践	◎